



あま市美和・甚目寺歴史民俗資料館だより

# ニューズレター

平成 29 年 3 月

No.007

編集・発行

美和歴史民俗資料館

(生涯学習課 文化振興係)

〒490-1292

愛知県あま市花正七反地 1

電話 (052) 442-8522



## 嫁入り道具の運び込み (昭和 20 年後半)

画像提供 鈴木幸夫氏(金岩)

リヤカー3台に満載された嫁入り道具を嫁ぎ先に運び込む様子を撮影したもの。かつて嫁入り道具における荷物、特にタンスや長持を「ツリモノ」と呼び、一ツリ、二ツリというように数えた。ただしその数については縁起を担いで奇数(割れないという意)であったとか。こうした隊列を見た当時の人々は、タンスが幾ツリあったとあって、その婚礼の大きさを推測したという。このように、いやでも人目に晒すとなれば、思い切って上等品を用意するのが人情、さらに新婦の晴れ着等もあわせて隣近所に披露するエリゾロエ(衿揃え)、エリカザリ(襟飾り)といった風習もあり、尾張の嫁入りが派手になる理由もうなずける。

本写真は昭和 20 年後半的一幕、この画像から分かる範囲で荷物の内容を記すと、タンス 3 棹(先頭 1 棹・中央 2 棹)、座布団 10 枚、寝具一式、鏡台 1、長持 1 が見られる。背景に写るのは北苧集落で、紋付き袴姿の仲人を先頭に、この先にある津島街道を通り、あま市金岩地区の婚家へと向かう。

\*資料館では昭和 40 年以降の市内で撮られた写真の収集をはじめました。何卒ご協力のほどを！

# 平成 28 年度 事業報告

## 〈1〉文化財に関すること

### ● 県天然記念物 下萱津フジ 一般公開

2日間で281名の見学者を得た。開催にあたり下萱津区老人クラブ連合会の協力、あま市観光協会の後援を得た。

### ● 普明院 本尊「鉄蔵阿弥陀如来立像」を「金銅阿弥陀如来立像」に名称を変更

詳しくはP6に。

### ● 尾張西部のオコワ祭映像記録製作委員会を設立

同祭調査委員会による報告書「尾張西部のオコワ祭」が刊行され、それを基に記録映像(DVD)の作製にかかる委員会を設立した。事務局は愛西市教育委員会。

対象は市内の小学生。蟹江町教育委員会と共同のうえ実施した。

## 〈5〉講演・公演会 事業

実施日	演題	講師
5/28	甚目寺観音の祭事	堀江泰史氏
6月	①古時計の魅力について	宮崎照夫氏
7/16	萱津神社の歴史と祭事	青木知治氏
10/29	②説教源氏節 <sup>演目</sup> うばかわ	もくもく座
11/12	尾張の小鉄仏探訪とその制作技法について	青山正治氏
11/26	甚目寺説教源氏節について	加納克己氏
2/25	③徳川の平和を考える	落合 功氏 <sup>他</sup>

①「ときいきねんび展」開催中の毎土日に展示説明会を実施した。②同公演を11/20に別会場でも実施した。③海部歴史研究会の主催する歴史講演会に協力した。

## 〈2〉企画展示会

期間	展示会名
2/28～5/15	あま市ゆかりの日本画家 「山田双年作品展」
5/30～6/29	第26回 ときいきねんび展
7/17～9/25	企画展 夏は夜 ～夜を描いた日本画～
10/30～12/6	あま市の文化財展(美和会場) 説教源氏節展(甚目寺会場)
1/29～4/4	収蔵品展 「酉の絵」

## 〈6〉文化体験講座事業 トイナオス

実施日	回数	講座名	講師
6月～3月	10	古文書解説講座	藤井智鶴氏
7月9日	1	古代史について	石鷹重夫氏
11月中	3	坐禅に学ぶ	山田泰信氏
12月20日	1	しめ縄教室	竹田武夫氏

## 〈7〉検定事業 (主催は実行委員会)

### ジュニア検定(小学6年生児童対象)

市内の全小学校校で実施した。対象となる6年生児童に出前授業(12月～1月)を行い、2月初旬に各校でジュニア検定を実施していただく。

### ものしり検定(中学生以上)

申し込みは41名。今年度は初級編のみの実施。初級は四択50問で、35問以上正解で合格とし、32名が合格した。また過去4回以上合格した受検者にあま市歴史マスターの称号を贈る。

### ものしりジュニア選手権

ジュニア検定で学んだ知識を発揮する場としてクイズ選手権を実施した。児童36名が参加した。

## 〈3〉歴史散策事業 アルケミスト

実施日	内容
4/17	蓮華寺「二十五菩薩お練り供養」見学会
4/29・30	下萱津のフジと周辺の散策
6/4	*あまてらす あまの北部をめぐる
8/21	萱津神社「香の物祭」見学会
10/9	木田八剣社「湯の花神事」見学会
11/5	あま市西域をつまみぐい
3/14	西今宿と萱津(市内巡回バス利用)

\*は海部歴史研究会の主催する散策事業に協力した。

## 〈8〉学習支援活動

### 移動博物館

収蔵資料より当地域の生活に関わり深い、暮らしの道具を8～12点ほど学校に展示し、3年生児童を対象に授業(1時限)を行った。

## 〈4〉水文化継承事業 エコきつず調査隊

実施日	内容
8/2	水質調査(地元河川)
8/10	木曾川の水生生物調査(木曾川下流事務所主催)
8/19	まとめ&エコきつずサミット

## 〈9〉ガイドボランティア養成事業

希望者に歴史ガイドの知識を身につけるべく当館主催事業に主体的に参加してもらう。

歴史講演会の文字おこし  
移りゆく甚目寺の祭事と暮らし

講師 甚目 昌氏

大正の終わり、物心ついた頃より、この地域と、ちょっと深い縁もございました。幼い頃よりこの地に良く遊びに来ておりました。永住するようになったのは70数年前でございますけれども、甚目寺の事は、ある程度分かっておりますゆえ、今回は当時の思い出話をさせて頂きたいと思っています。

昭和の初めというのは明治に生まれた方たちが、まだたくさん生き、社会の中核として活躍していらっしやった時代でございます。「時代の波」というのも今ほど、はやくはございませんゆえ明治の暮らしというのは色濃く残っており、思うにその最後の時代じゃないかなと思っています。

私が小学生の頃、学校で習った歌といえば、日清戦争の黄海海戦の歌ですとか、日露戦争で活躍し軍神といわれた広瀬中佐あるいは陸軍橋中佐の歌でした。そしてわらべ歌あるいは鞠つきの歌でいうならば、徳富蘆花(とくとみか)の小説の登場人物である「武男と浪子(たけおとなみこ)」の数え歌ですとか、「金色夜叉の熱海の海岸を散歩する」とかいったような歌詞(尾崎紅葉著



▲かつての甚目寺観音本堂

「金色夜叉」も意味もわからずに歌っておりました。また小学校の唱歌でさえも例えば「灯近く縄綱(なわ)う父は過ぎし草の思い出語る」、この過ぎし草というのは日清日露戦争の事と教わりました。このように私が小学生の頃は、明治という時代を肌で感じる事ができたのです。

昭和の初めに私がここへ来た頃、庄内川より西、甚目寺観音(以下観音)周辺以外は、ほとんどが田んぼばかりでお店などは有りませんでした。具体的に見ると津島街道を名古屋から西へ進み、法界門橋を通り、甚目寺地内に入ると江上(えがみ)という地名がありますが、ここには「天王さん」すなわち津島牛頭天王(ごすてんのう)がお祀りされた小さい社(やしろ)があつて、同地区では今でも尾張津島天王祭の宵祭と同じ日に祭事を執り行っていますけれども、そこの前を通りすぎ、そのまま西に向かいますと甚目寺駅からまっすぐ南に延びる道と交わる三叉路にたどり着きます。この東にかつては東門があつたと伝え聞きいております。これは明治の終りの頃に、壊れ無くなったそうです。

甚目寺観音(以下観音)の周辺には当然、土産物屋などあつて、ついこの間までとって我々の世代の人たち、例えばここにも来ていらっしやる方もご存じと思われませんが、薬屋とか紅葉屋(お茶等)あるいは大阪屋さん江戸屋とった宿屋ですとかが残っていました。あるいは通りに沿って小さな土産物を売ったり、御茶所(おちゃしょ)をしている場所などもあつたと思いますが、たくさんの店を横目に東門にたどり着きます。かたや仁王門(今の南大門)の方には、観音の南へ500(む)ほど行った場所に交差点(現在の甚目寺観音南交差点)があつて、そこに本来の大

門がありました。この大門は私も知っていますが、昭和 9 年の室戸台風（1934.9.21 発生）でほとんど壊れ翌年から 11 年頃には完全に撤去され、今は影も形もありません。あの辺りは今でも東大門、西大門等と呼ばれておまして、辺りには塔頭(たっちゅう)はじめ多少の土産物を売るような人もあって、広く見れば観音の境内のひとつではなかったかなあと思っています。

昭和の初めのころまでは、今の甚目寺会館（甚目寺資料館の建物）の辺りに東林坊(とうりんぼう)が、その南には福寿坊というお寺がありました。私は東林坊の住職の顔もわずかに覚えております。

ちょっと話がそれますけれども、大正から昭和に入りますと、ずっと世の中が変わってまいりました。昭和 6 年に甚目寺の西の口、そのころは西の口、西の口と呼んでおりましたけれども、今の甚目寺小学校より西には、ほとんど家も農家も、もちろん多少はあったんですけども、それ以外には、家など無い状況でしたが、そこに日東紡績工場が建設されました。それにより紡績会社に勤める女工がこの町にも大勢やってきたり、それ以外にも社宅が建設されたりして、ちょっと賑わってきました。その一方で、観音の東にも昭和 11 年頃だったと思いますが、いまの高岳製作所のところに橋本製作所などの工場が建設され、そして戦中にはそれが軍需工場となりました。ただ、



▲日東紡績の煙突（昭和 50 年代撮影）

こうした工場の進出に伴い、町の様相も一変してきまして、この甚目寺の町通り（津島街道）にも時計屋、靴屋、下駄屋、みそたまり屋、畳屋といった、私も色々思い出しますが、そういった日常生活に関わる店屋が増えてきました。

ちなみに昔の茶屋というのは観音の境内に御茶所(おちやしょ)とって、お湯を沸かして参詣者に無料でお茶、番茶でしようけれども、振舞っていました。他にも今の仁王門の前には昭和 40 年くらいまで、皆様もご存じだと思いますが、東南隅に杉本屋（料理屋）があり、その西側には竹屋という茶屋がありました。私も父から竹屋だ、杉本屋だという事は聞いておったので今も記憶に残っております。

また東門前の紅葉屋は、単にお茶だけでなく、おでんとか、ちょっとした食事でも提供していました。また「かんつぼ」とって要するに酌婦(しやくぶ)ですね。そういった人たちも働いており、食事とお酒を振舞っていたようです。こうした店は、ずっと江戸時代より、この地で商売されていたということを聞いております。やがてはこうしたお店も段々無くなってきますが、それでも富山の菓売り、それから呉服の小物を持って売り歩く行商人が、この地にやってきてこの甚目寺界限の宿を常宿としていたようです。その中には旅芸人の一座もおりまして、そういう人たちが来ますと、観音の境内でちょっとした芝居を見せるといったようなことも行われていました。

この当時、名鉄津島線の線路より北に建物は、なにも無く、あたり一面の青田（昭和の初め頃）でございました。戦争が終わるころまで本当にきれいな青田でしたね。そこが昭和 19 年 3 月に陸軍に



より清洲飛行場が建設されることになりました。地元では甚目寺飛行場と呼んでいますけれど、名古屋を防衛するために飛行場をここに建設するんだ、急遽そのような話しがだされ1週間も経ったら起工式が行われ、10月初めには軍隊と飛行機が入って来ました。何もない青田からですよ。かつて観音の裏に立てば、ずっと向こうに清須市廻間(はざ)ですとか稲沢市大里(おおさと)の辺りを通る名鉄電車が、ここからでもはっきりと見えました。また夏にはシラサギが来て、カエルをついばみ、羽ばたく姿も懐かしいものです。甚目寺の集落から西今宿(にしいま)へ行くにも今宿西と呼ばれる細い田んぼ道があって、そこを歩いて今宿の集落に辿り着くといった状況でした。かつての昔日の感は全くなくなってしまいました。ここは広々とした濃尾平野の一隅であった訳でございます。

先ほどから申しますように明治というのが、色濃く生きていたのは昭和の初めまでとっておりますが、それでも江戸時代とは大きく変わったと思います。しかし農地というのは変わらず、終戦までは、この地域はこんな広々とした田園を抱え、割に豊かな農村であったと思えました。また、こうした田んぼの中には観音の土地もあるのですが、その土地を耕

していらっしやる地元の人たちが大勢いて、当然観音と深い関わりがあるものですから、祭事の担い手にもなっていたのですが、農家の少なくなった現在では考えられない話しです。

またかつては、ほとんどの祭事は旧暦で行われました。ご承知のように明治の初めに太陽暦に変わりましたが、農事というのは、今の機械化された農家の生活とは違っており、例えば昭和初めまで秋の収穫は、だいたい11月半ばくらいより稲を刈りはじめました。そのため11月の終わりから12月の初め頃、どこを通りましてもガラガラと脱穀の音がしたものです。さらにまだ稲は田んぼの中にたくさん残っておりまして。それを取り入れて、干して俵に詰め、地主へ届けるなど忙しく、とてもお正月という気持ちにはなれなかったということです。そのため観音の御鏡餅なんかも、昔は旧暦のお正月に沢山あがりました。観音の行事というのは、お百姓さんたちの生活の中で、その方たちの便宜を図るといったら、変ですけれども、昭和30年ころまでは旧暦で行われていたのです。そうしないと、なかなかゆっくりと休めないといったようなことでした。

平成27年5月開催の歴史講演会「移りゆく甚目寺観音の祭りと暮らし」と題し、甚目寺地区在住の甚目 昌(はだめ)氏をお迎えし講演会を実施。90歳を超すお歳にもかかわらず、約100名の聴講者に対し60分間、ご自身が見てこられた甚目寺の移り変わりや暮らしの変化をお話しくださいました。貴重な話しゆえ本紙面にて、かつてのこの地域の営みを中心に抜粋し、掲載しましたが、紙面の都合で全体の3分の1ほどしか掲載することができませんでした。この続きは、別の機会にお披露目いたします。

## 国民文化祭 盛況裡に閉幕

国内で昭和 61 年から続く国民文化祭が、平成 28 年、愛知県で初めて開催されました。それにあわせ美和資料館では、あま市指定文化財 6 件を含むあま市内に伝わる文化財 18 件を展示紹介する企画展「あま市の文化財展」を、甚目寺資料館のいては旧甚目寺町の西今宿地区にかつて伝わっていた「甚目寺説教源氏節」を紹介する企画展「説教源氏節展」を開催しました。

また「あま市の文化財展」に先立ち、大同大学名誉教授の青山正治先生により、花長<sup>(はな)</sup><sub>(おき)</sub>の普明院<sup>(ふみよ)</sup><sub>(ういん)</sub>に伝わるあま市指定文化財の鉄造阿弥陀如来立像の調査が行われました。なお、青山先生には 11 月に「尾張の小鉄仏探訪とその制作技法について」の演目でご講演をいただきました(右画像)。

調査の結果、本像は鉄仏ではなく、金銅仏であることが判明しました。本像が鉄であれば磁石が引っ付きませんが、調査で像表面に磁石が引っ付かなかったためです。このため、本像の名



称を「鉄造」から「金銅造」に改めました。本像の袖裏の陰刻銘から造立年が明応 9 年(1500)と分かっており、文化財としての価値は変わりません。また、像表面の鑄造の様子から造像の過程がよく分かり貴重である、と青山先生から指摘を受けました。なお、本像は現在、美和資料館に寄託されています。

## 第 7 回 あま市ものしり検定合格者 発表

平成 29 年 3 月 5 日に実施された「あま市ものしり検定」の合格者は、以下の通りです。(敬称略)

永田さき子・古橋雅勝・鈴木ゆかり・白井正俊・加藤仲子・近藤紀久・近藤富士子・西沢稜而・加藤三千年・小島克彦・信岡彦弘・藤田昌平・川上公仁子・松井 誠・林登子・中ノ瀬君子・大角佳生・熊澤節子・木下輝代・木下吉浩・赤坂孝子・西原無限太・西原美奈子・深川照之・原 邦夫・青木米子・二橋國宏・小山武・伊藤駿介・早瀬比呂志・野々垣弘利・武田 章の以上 32 名です。おめでとうございます。下線はあま市歴史マスターの称号を得た受検者。

### 甚目寺歴史民俗資料館

開館時間 9:00~12:00、13:00~16:00  
 休館日 水曜日、木曜日  
 入場料 無料  
 交通 名鉄甚目寺駅より南に徒歩 5 分  
 駐車場 10 台  
 電話 (052) 443-0145  
 住所 あま市甚目寺東大門 8 (甚目寺会館 3 階)

### 美和歴史民俗資料館

開館時間 9:00~16:00  
 休館日 水曜日、木曜日(6月は木曜のみ)  
 入場料 無料  
 交通 名鉄木田駅より北に徒歩 10 分  
 駐車場 20 台  
 電話 (052) 442-8522  
 FAX (052) 445-5735  
 住所 あま市花正七反地 1

E-mail [bunkashinko@city.ama.lg.jp](mailto:bunkashinko@city.ama.lg.jp)